

もの・まちづくりサークル縁 初代代表 佐々木 俊平 氏



復興を担う人材を目指して

岩手県宮古市出身の二十二歳です。小学校五年生の時に東日本大震災を経験して、復興を担う人材になるために建築の道を目指しました。山形大学建築デザイン学科の四年生で、絶賛卒業制作作成中です。卒業後は南陽市のハウスメーカーに就職するのですが、仕事でまちづくりに関わることはないと思います。個人としては今後ともまちづくりに関わっていきたいと思っています。

学生が動けばどうにかなる！

簡単に、もの・まちづくりサークル縁の紹介をさせていただきます。創設は今から二年ぐらい前、コロナが流行りはじめて、オンライン授業が始まりました。建築デザイン学科はできたての学科なので、先輩との交流がなく、さらに同級生との交流もできませんでした。他の色んな活動を通して他大学と交流する中で、三年生の時に、「こんな状況で卒業は大丈夫か？」と何となく焦りだしたときに、「大学が悪いんじゃない、学生が動けばどうにかなるだろう！」と思って、このサークルを創りました。

「縁」という漢字には、「えん・えにし・よす

が」など、色々な読みがあります。建築デザイン学科には、デザインしたい人・家具を作りたい人・まちづくりしたい人など色々な人がいて、一個の目的に向かって進んでいくのは難しいので、色々な関わり方があって、面白い山形大学建築デザイン学科ができるんじゃないかなと思って、この「縁」という名前にしました。令和二年十月二十日設立で、所属人数は現在七十九名。山形大学の1〜四年生が大半ですが、山形芸術工科大学の学生さんも数名いて、これからも山形芸術工科大学の学生さんとは関わりをもっていきたいと思っています。

現在の活動は、エリアを分けて色々ありますが、今回は上山市のまちづくりや商店街との関わりがある活動をメインにお話しします。活動の経緯は、当時大学の講義でお世話になっていた方に、「サークルができたばかりで、場所もお金もないけど何か活動したい」と相談したところ、上山市のNPO法人の方につないでいただきました。

活動内容は、空き地・空き家の利活用というものでしたが、学生は現場のことはわからないので、なかなかデザインしづらいこと、フィールドワークもやりたいし、いきなり学生が空き家に入れないということもあって、空き家を管理されている方と、小さなことか

らやっていこうということで、活動を始めました。

フラットな関係・地域とのつながり

最初の活動は、上山駅前の旧風月堂というお土産屋さんです。ここは、ずっと空き家でシャッターが閉まっています。駅を降りてすぐに目に入るのが、シャッターが閉まっている建物では印象が良くない。まずはどうかしてシャッターを開きたい。でも、サークルができたばかりで出せるものが何もない。このような状況で、「何とかしてシャッターを開けられないか」と考えたときに、大学の講義で作った設計の展示物の展示会をやるうと思いついて、シャッターを開けて、中にプレゼンテーションボードを展示して、発表させていただきました。当時はシャッターが閉まっていたのですが、今はシャッターを開けて、イベントが開催されていたり自分たちの作品を展示していただいています。

次に、かみのやま温泉駅前再開発のワークショップに参加させていただきました。この活動で上山市役所の方とつながることができました。学生が地域の人と一緒に活動して、「このまちのここがいいよね」「ここをこうしなきゃいけない」といったことを、自治会長

さん、市役所の職員さん、学生など、色々な立場の人たちがごちゃ混ぜの状態で話し合うことができました。講義みたいな形ではなく、街を歩いたりもして、一緒に話し合うような雰囲気だったので、すごくフラットな関係を築けました。今でも市役所の方からメールが来て、「こういうことやるので参加しませんか?」と声を掛けてもらっています。

旧風月堂は、実際には展示だけやってもどうにもならないので、今は、harappa(はらっぱ)という、蕎麦を打ったりカフェをやったりできるお店になっていて、その塗装にも参加させていただきました。建築デザイン学科の学生って、図面を引いたりまちづくりを構想するイメージがあると思うんですけど、実際に物を作る講義が大学にはなくて、塗装組合の方に教わりながら塗装しました。子どもたちと塗装する中で、「建物ってこうできてるんだ」と、自分たちが考えたデザインが、どうやってできているのかを体感できたと思います。これをやることによって、子どもたちとか舗装組合とか、地縁的なつながりを持てたのがすごく楽しかったです。

サークルの発展と今後の展望

これまでの活動は、はボランティア的な要

素が強かったんですけど、そうではない、澤の湯という現在使われていない共同浴場利用案コンペもやりました。基礎や清掃から自分たちで入って行って、どういう印象を受けるかってそこから創造して、自分たちの専門分野である設計をさせていただいて、空間を掴んでから、じゃあどういう空間を作っていくのかって話をさせていただきました。

これまでは、建築デザイン学科としての性質が強かったんですけど、サークルとしての成果物が出せるようになるくらいの活動ができたので、旧風月堂での第二回の展示会は、サークルの展示会ということで「縁展」としてやらせていただきました。第一回は、シャッターが閉まっていたはずのところが空いているという物珍しさから来てくれる人が多かったんですけど、第二回は市役所職員の方だったり、普段ご飯を食べにいらるようなお店の方だったり、「来てくださったんですね!」とあいさつできるような関係の地域の方々に来ていただけたのがすごく面白かったですね。

これまで、大学で先生にしか評価されなかったものを、地域の人に見てもらえる機会が、学生にとって良い刺激になったかなと思っています。

現在進めているのが、上山市にある、これ

まで空き家状態になっていたビルでの活動です。大きめの建物で、ガラスが曇っていて印象が悪かったので、模型を作るワークショップをやって、子どもたちと一緒に、こういう建物があると面白いよねって考えるような活動をしました。他に、ガラスにマスキングテープを貼って絵をかくて、少しでも明るく、暗い印象を与えないようにしました。今はまだ実験段階で、どういう人が来てくれるか見ているところですが、今後も活動は広く展開していこうと思っています。

今後の展望としては、まだ設立して二年経たないサークルで、学科の二、四年生が来年から米沢キャンパスに移行して、一年生は先輩がいない状態になるので、自分もOBとして関わって、何とかしていきたいと思っています。この学科は講義が忙しくて、なかなかイベントが開催できないので、何かやり方を考えていかないとと思っています。

自分はこれから卒業して、メインとして動けなくなりますが、卒業後も、山形で活躍する学生と一緒に活動したいと思っています。自分の後輩たちには、山形県が大きく変わるようなデザインを作る才能があると思います。もの・まちづくりサークル縁の活動と一緒に活動する学生には、面白い人がたくさんいるので、そういった人とつなが

ってほしいと思っています。

学生をまちづくりに引き込むには

学生をまちづくりに引き込むためには、というお話をさせていただこうと思います。

自分としては、面白いイベントがあるから、または面白い組織があるからまちづくりに参加したいと思う訳ではないのかなと思っています。それこそ、サークルを作ったときに、「こんなあったら画期的だからもつと集まるだろ」と思っていたら、そうでもなかったら、今の時代だからこそ、枠組みで見ると、やなくて、その人個人がやりたいこと・できないこと・できないことを見るのが大前提じゃないかなと思っています。そういう目で見ると、高校生・大学生はめちゃくちゃ使いやすい存在じゃないかなと思います。イベントで、小中学生とほぼ同じ目線で遊べるし、イベントに不満があれば、そのあと企画会議や反省会にも呼べるし、子供と大人の間にいる存在です。皆さんも、やりたいことを色々考えていってほしいなと思います。一人でやっていっちゃう方はあんまりいないと思うので、まずは周りの人や一緒にやってくれる人が、何をしたいかどんな人なのかを考えること、そうすれば「じゃあこれやろう」というのが自然

と見えてくると思います。自分が七十九名の学生を一気にまとめる立場にあったからですが、エクセルに、名前と出身と好きなことを七十九名分まとめて、「こういう人だ」というのを覚えておくといいと思っています。そして、久しぶりにサークルに参加した人に、「あの時、自己紹介でこう言ってた人だよ」と覚えていて言うだけでも違うと思います。自分は学生なので好き勝手言えるんですけど、仕事をされている方は、部下が「あのときこう言っていた」というのを覚えているだけでも、やれることの可能性は広がるのかなと思います。

やろうと思えば何とでもなる

次に、学生さんが一から自分でイベントを立ち上げる時に気を付けた方がいいこともお話しします。

自分の経験から、震災というところからお話しさせていただくと、東日本大震災以降の学生の運動は熱があった。それは、「復興」という、何となくふわっとしたゴールがあったから。「復興」に向けて、「じゃあ何か集まろう」という動きがあった。そのときは、動機がふわっとしていたから、みんなが好きな手集まって活動できたんですけど、コロナは

また勝手が違って、活動に制限がある。それでも、やりたいことがあつてくすぶっている人がいると思うので、その熱量を伝えるだけでも集まれると思います。最初は三人ぐらいで、小さい活動でもいいと思います。「コロナで何ができなかった・何が制限された」という不満は、絶対みんなにあると思うので、そこにはまるものを見つけて、最初は自分がやりたいこととずれるかもしれないませんが、アプローチをかけられれば、今まで話したことがない人、クラスが違う人でも、呼びかければ来てくれます。今はSNSが普及しているので、やろうと思えば何とでもなると思います。自分も、会えない一年生に、zoomで、知っている人を呼んで来くるよう声をかけています。いろんなイベントがつぶれてしまっているので、学生にとっては良くない年だと思っています。学生にとつてはゼロからやりたいときには、コロナを大義名分にしてやっちゃえばいいと思います。

最後に、自分のSNSの紹介もさせていたかどうかと思います。もの・まちづくりサークル縁のホームページは、あまり動かせていないので、フェイスブックとかツイッターを見てもえればと思います。私個人のフェイスブックもありますし、卒業後、友達と始める予定のデザイン会社「綴寧(ていねい)」もフェイス

ブックのアカウントを作りましたので、興味がある方は見ていただければと思います。
(終)